



九条の樹

東久留米「九条の会」ニュース 第25号
2010年1月発行・東久留米「九条の会」
代表者 古田足日・連絡先 鈴木Tel 042-473-9489
<http://members2.jcom.home.ne.jp/hgsk9jk/>

◆鳩山内閣の改憲

古田足日

(東久留米「九条の会」代表)

最近の「改憲」の動きはどうか。今年5月18日は国民投票法施行の日ですが、国民投票実施のためには踏まなければならない手続きがあります。その重要な手続きとして07年8月に改憲原案の審査権を持つ憲法審査会が衆・参両院に設置され、自公政権の末期、09年5月には衆議院でこの委員会の「規程」が強行採決されました。だが、参議院ではその「規程」議決はできていません。そして、何よりも衆参両院共にその委員会の委員が選任されていません。この委員会がまだ成立していないことに現れているように、改憲の準備はもた



ついでにきました。

しかし、ここにきて新しい動きが生まれました。09年12月27日の新聞は鳩山首相の改憲談話を報道しています。首相は「ベストな国のあり方のための憲法を作りたい」という気持ちがある。必ずしも九条の話というところでなく、地方と国の関係を大逆転させる地域主権における憲法の改正だとのべ、「まず民主

私の主張

党内で議論し、さらに超党派で議論することが必要」(読売)といっています。

この鳩山発言は憲法論議が九条以外にも広がる豊かさと共に、広がりすぎる危うさも示しています。またこの鳩山の考えは明文改憲、憲法の条文を変えていこうとするものですが、民衆には「改憲の仕方」についてもう一つの考え方がありま

す。それは「解釈改憲」といわれるもので、小沢一郎幹事長の考え方です。小沢は今、国会法を改正し官僚が政府参考人として国会に出席・答弁することをやめさせようとしています。これには内閣法制局長官が政府参考人として答弁することをやめさせようとする意図があると複数の新聞が報道しています。小沢はもとも「国連決議があれば海外での武力行使も可能」という考えを持っています。一方内閣法制局は「法の番人」とも呼ばれ、「ときの政府の意向をかなえる一方」、「例えば海外での武力行使をめぐって『憲法九条の下ではできない』との見解を守り続け、憲法解釈に一定の歯止めをかけてきた」(朝日)存在です。今度の国会法改正はこの「歯止め」をなくし、ときの政府の考え方によって「解釈改憲」が通されていく恐ろしさをはらんでいます。今後この解釈改憲の進行にも注意したいと思います。

美(ちゅ)ら海・ 美(ちゅ)ら島・ 命(ぬち)どう宝 の沖繩

岩下弘 66歳
(南沢在住)



昨年の11月、普天間基地の閉鎖をもとめる県民大会があった直後、私は沖繩の基地と慶良間(ケラマ) 諸島の戦跡をめぐる「沖繩平和の旅」(20人のツアー/4日間の旅)に参加。沖繩は私にとって初めての旅でした。沖繩戦で、日本軍の強制による住民の凄惨な「集団死事件」があった沖繩。たずねた島々の大小様々な碑や戦跡の壕(ガマ)は、どこも沖繩の緑いっぱいの木々と真つ赤なハイビスカスの花で囲まれた自然の中にありました。1日目、ひめゆりの塔、平和の礎(イシジ)、糸数、南風原(ハエバル)の壕、夜は

古堅(フルゲン) 実吉さん(元衆議院議員)の「沖繩戦と戦後のたたかい」の講演。2日目、首里城、読谷(ヨミタン) 村の壕、嘉手納基地、普天間基地、移転先にされている辺野古(大浦湾)の美しい砂浜、米海兵隊基地の「有刺鉄線」と「監視カメラ」を後ろに座り込んでヘリ基地反対協議会の大西照雄さんと懇談。3日目、慶良間(ケラマ) 諸島、渡嘉敷(トカシキ) 島などの戦跡めぐり。最終日は沖繩(琉球)の「聖地」・「斎場御嶽」(セーファ・ウタキ)、沖繩ワールドを観光。そこであのダイナミックな踊り「エイサー」を見終わってところで、なごりおいしい沖繩を後にしました。

古堅さんは、講演の中で「(本土で) 私は会う人ごとに沖繩の現実を『百聞は一見に如かず』、日本の政治の根幹に関する問題をほらむ沖繩に、ぜひ足を運んでほしいと言ってきました。』と言われました。それから沖繩師範学校に在学中だった1945年3月末、「学徒隊」として15歳で戦場に強制動員されたご自身の戦争体験の話をされました。静かに切々としぼり出すように話された一言、一言、いまでも思い出します。たった4日間の旅でしたが、たくさんの戦跡(碑やガマ)をめぐりました。世界一危険な普天間基地も見ました。移転先にされている辺野古の浜で、壊され、つぶされようとしているジュゴンの海もすっかり見ました。大西さんの話も聞きました。沖繩戦のこと、戦後、現在と基地のない平和な沖繩をもとめる沖繩県民、島々のみなさんのゆるぎないおもしろい、長い、幅広いたたかい、その息吹に接し、古堅さんが言われた「日本の政治の根幹に関する問題をほらむ沖繩」をつよく全身で実感した沖繩の旅でした。



— 沖繩普天間 基地問題 —

「米軍普天間飛行場の「県内移設ノー」を意思表示しよう」と2009年11月8日、宜野湾海浜公園屋外劇場を主会場に開かれた「辺野古への新基地建設と県内移設に反対する県民大会」。会場は参加者でぎっしり埋まり、入りきれない人々が会場周辺を囲んだ。参加者の心が一つになり、熱気にあふれた。「(琉球新報11月9日付より)
現地の新聞各社が大きく1面トップで2万5千人の集会を写真入りで報道。琉球新報には、1面から32面まで何力所も2面ぶち抜きの写真を使い、沖繩県民の総意は、あげて「米軍基地撤去」であることを強く示していました。
軍事同盟は、世界にはすでに日米軍事同盟を入れて4つしかなく、話し合いによる解決へ移行してきており、軍事同盟その

ものが無くなりつつあること、
 沖縄県民の総意からも「日米合
 意は重いのではなく軽くなって
 きている」ということが、世界
 的な流れです。



琉球新報2009年11月9日
 1面32面ぶち抜き紙面



琉球新報11月6日付「普天間移設」
 問題の経緯や、県内に集中する米
 軍基地の実態などをまとめたビ
 ジュアル版



◎毎月9日は
 『9の日宣伝』
 ごいっしょに参加しませんか！
 午後4時～5時
 東久留米駅西口で
 「憲法九条」を「守り」「広げる」
 宣伝をしています。

「国会法」ってなに？

鳩山（民主・社民・国民新の与党3党）政権は、通常国会で「国会改革」関連法案の成立を目指す方針です。

だけど「国会法」ってどんなもの？

どう変わるの？ どういう影響が出るのだろう。

問題点は？



法の番人といわれる、内閣法制局長官が国会で政府参考人として答弁することやめさせようとする意図があると、複数の新聞が報道しています。これは、武力行使に道を開く条件づくりであり、「解釈改憲」が通されていく恐ろしさをはらんでいます。きわめて重大な動きで、最近、各マスメディアでも取り上げられ始めています。「国会法」といっても、国民にはわかりにくく、私たちもよくわからない。急いで学習する必要があるので、急遽、弁護士を講師に学習会を開催することになりました。

『国会法「改定」と憲法』

助言者… 弁護士を予定

日時… 2月21日（日）午後1時30分～

会場… 市立中央図書館視聴覚ホール

声

大西洋上の島 にあった9条

福西かつ子

憲法九条を考えると、私はあの感動感激を再び思い出すのです。

もう3年になるでしょうか。私たちの日本国憲法9条がスペイン領カナリア諸島にあることを知り、直ちに出掛けたのです。モロッコの近くの大西洋上にあるカナリア諸島です。ここは五つの市があり二番目に大きいテルデ市にあると言うのです。スペイン領ではあるが日本から首都マドリッド迄約14時間、飛行機を乗りついでテルデまで2時間と遠い遠いところです。長野、千葉、東京と9条が

大事と思う13名の一行でした。

前もって市には連絡してあったので多忙な市長さんも日本からの初めてのお客さんです、と30分を超える対面で歓迎してくれました。9条のある場所へ移動しようとした私たちの車の前にパトカーが現れたのです。事件？事故？と顔を見合わせた私たちに笑顔のポリスが先導しましたのです。笑顔のポリス、こ

れも9条を大切にしている平和な島なのだと思いました。

町の一角にある公園「ヒロシマ、ナガサキ広場」にあったので。私たちの憲法9条が。



スペイン名産のタイルで作られているそれは巾1メートル、長さ1.5メートル位やさしい黄色の地を周囲がコバルトブルーで囲んでいる美しいもので一際

9の字が誇らしく見えました。

こんな感動は滅多にあるものではないですね。そしてこうも思いました。9条が生まれた国でこれをなくしてしまおうとしている者がいるのに、はるか遠いこの地でこんなに大切にされている、そしてテルデ市の「市是」にまでしているのですから。私は涙が止まりませんでした。9条により後日談と感動物でした。

帰国してすぐにこの感動をA新聞に投稿したのです。

有名な「青い空」の作曲者である大西進さんから連絡がありました。あなたの文章に感動した、これを歌にしませんかとの事で生まれたのが「憲法9条を世界へ・東京―テルデ」です。「ヒロシマ、ナガサキの心を、9条を世界へ」

日本国憲法9条、絶対守らねばとの思いはますます強く思うようになりました。

◆お知らせ

・9の日宣伝

1月9日(土)
2月9日(火)
午後4時～5時
東久留米駅西口

・学習会

「国会法『改定』と憲法」
2月21日(日)
午後1時30分～
市立中央図書館視聴覚ホール
助言者・弁護士を予定



※東久留米「九条の会」4周年のつどいの際には、大勢の方にカンパをいただきありがとうございます。今後の活動に役だたせて頂きます。